

# 絆 求 め て

12月17日発行

文責 私学振興専門員 久保田学



## 秋季公開講座ご参加ありがとうございました

令和3年11月27日(土)、聖心女子大学教授 河邊 貴子先生を講師にお迎えし、「秋季公開講座」をWEBで実施しました。テーマは、「遊びの質を高める保育」で、先生が体験された様々な事例をご紹介いただき、その事例を通して、各園でのこれまでの実践の見直しや今後取り組んでいきたいことについてお話しいただきました。特に、「子どもの心身の育ちと遊び」「遊びの質をどう捉えるか」「遊びの質を高めるために」の3点からたくさんのご示唆をいただきました。またチャットに質問や感想をお書きいただきましたが、「遊びの流れを生み出すための教師の支援について考えていきたい。」「興味を持って探究できるような環境づくりを工夫したい。」「このような学びを、保護者へ伝えたり、小学校につなげたりできるよう、発信していきたい。」などの感想が寄せられました。

### <研修から学んだこと>

- 「保育の質を高める」という題材の研修はいくつもありますが、今回の研修では、より具体的に子どもの遊びとは、そしてその遊びをどう捉え、保育者がどんな環境を設定し、どう関わっていたら良いのかという点で、一人一人の先生の考えを大事にしながら、職員同士で遊びについて話し合い、子どもの理解、理解にもとづく環境構成、短期・中期・長期計画を考えていくことの大切さを学びました。
- 「子どもは生まれながらにして主体的な存在」との言葉に「同感」と日々思いながら、教えることを当たり前のように保育している自分の矛盾に気づき、はっとしました。子どもが自ら興味を持ち、自ら関わり、繰り返したくなるようなわくわくできる環境と、変化していく思いや経験に常に気づき寄り添えるよう、観察記録の大切さを学ばせていただきました。

### <今後の保育実践に生かしたいこと>

- 先生主導ではなく、子どものやりたい遊びを楽しめるようにするにはどうしたらよいか考えるよい機会になりました。私は未満児担任ですが、3歳以上の子どもに対しての環境構成や遊びへのかわり方を学ぶことができました。また未満児に対しては一次レベルの環境が特に大切であるということを理解することができましたし、日々の保育を見直して子どもの手の届くところに玩具が置かれているか等、よく見直していきたいと思いました。
- 遊んでいる子ども、停滞している子どもの内面を教師1人でなく、フォトセッション等を用いながら、園内研修で深めていきたいです。

参加された先生方の感想に、「自分の園では、一斉活動が主で進められています。子どもの主体性を考え、今どんな保育展開をしていくか模索しています。」とありました。おそらく「私の保育は子ども達にとって主体的な保育になっているのだろうか」と不安や迷いを感じている先生もいらっしゃるのではないのでしょうか。河邊先生の講演の中で、「子どもは未熟な存在、だから私たちが教えるなければ学ぶことはできない そう考えるのか、それとも、子どもは有能な存在、主体的な存在、そう考え支援するか」とのお話がありました。保育者の子どもに対する考え方が子どもを受動的にするか、それとも主体的にするかの分岐点となるのだと思います。そしてこのことは、保育者だけでなく、保護者とも共有していかななくてはならないことと感じました。子どもの主体性を引き出す環境構成、学びを継続・発展させていく保育者の支援のあり方、子どもの思いを見取る保育者のスキルアップ、そして保護者への情報発信としての保育の可視化など、園の先生方と自分や自園の課題を共有し、園内研修でその解決の手掛かりを見つけられたらいいですね。 (専門員 久保田)